

## ドライマウスの診断と対処法

佐藤 勉

日本歯科大学東京短期大学

口腔は消化管の始部であり、その機能は、食物の摂取・咀嚼・消化・味覚・嚥下・鼻腔に代わる補助的気道・音声構成など、極めて多岐にわたる。その機能の多くに重要な役割を担っているのが唾液であり、各種唾液腺から分泌される口腔固有の物質である。唾液の組成は、約99%が水分で、その他に $\text{Na}^+$ 、 $\text{K}^+$ 、 $\text{Cl}^-$ 、 $\text{HCO}_3^-$ などの無機質、アミラーゼやリゾチームなどの酵素、ムチンなどの糖タンパク質、IgAなどの有機質が占める。これらの成分は、それぞれが唾液、ひいては口腔の機能に欠かせないものとなっている。すなわち、唾液は口腔機能の維持に重要な物質であるが、近年では口腔のみならず全身的な健康の保持・増進にも深く関与していることが明らかになってきた。ドライマウスは口腔乾燥症の別称であり、口腔内が乾燥した状態を言う。ドライマウスは種々の原因によってもたらされるが、大部分は唾液分泌の減少によるものと考えられている。上述のごとく、唾液には様々な生理作用をもつ成分が含まれていることから、その分泌が減少したドライマウスでは、口腔機能の障害や健康影響が生じやすくなる。わが国では人口の超高齢化も関連して、ドライマウス患者が増加しており、その対策が重要となっている。しかし、ドライマウスを引き起こ

す唾液分泌量低下の原因は様々で、未だ明らかにされていない部分も少なくない。このような状況であることから、ドライマウスの原因を明らかにするための診断法や対処法は必ずしも確立されていない。しかし、現実には口腔乾燥を訴えて歯科診療所を訪れる患者が増加している。そこで前号では、原因を異にすると考えられるドライマウス患者について、症例報告の形で紹介した。今号では大学においてドライマウス研究に従事している宮坂孝弘先生に、原因・症状・検査法・診断・合併症と関連病変・対処法について整理・解説して頂いた。解説によると、専門家の間でも、唾液分泌量低下と口腔乾燥が混同されることが多いが、臨床的には、両者を区別して対応する必要があるとのことである。最新の定義では、「ドライマウス(口腔乾燥症)は唾液分泌の不十分、ないしは少ないことによって起こる持続性の口腔乾燥で、水分を補給して改善する一過性の口渇とは異なる病態である」となっている。ドライマウスに悩む患者が増加する一方で、その対処法は確立されていない。本稿がドライマウス患者に対して、より適切な対処法を選択するための一助となることが望まれる。